

# 奥羽大学報



第 23 回奥羽祭

## 目次

無垢サロン	2
奥羽大学の理念・目的／認証評価受審に関する全学FD・SD	3
高校生の大学見学訪問／第78回私立大学歯学部学生生活協議会／ 歯学部保護者懇談会／薬学部1年生赤十字救急法講習会／ 薬学部保護者懇談会	4
薬害に関する講演会／薬学部第2回教育研修・講演会／ 花岡教授、山形県警察歯科医会で講演／薬学部5年生キャリアガイダンス／ 第24回公開講座を終えて	5
スポット校友会	6
「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン／ 薬学部の神山祐樹君が座長賞を受賞	7
第69回日本細菌学会東北支部総会／国際哺乳類ゲノム会議参加報告／ 国際口腔顎顔面外科学会学術大会参加報告	8
第68回東北地区歯科医学会／第60回奥羽大学歯学会／ 大学院特別セミナー／研究倫理に関する大学院特別研修セミナー	9
附属病院	10
奥羽大 now／自著を語る	11
歯学部研究紹介	12
薬学部研究紹介	13
同窓会だより／同窓生のひろば	14
人事	15
平成 28 年度入学試験日程	16



## 明るい光、豊かな緑 ～いつも仕事は前にある～

理事長 影山 英之

紅葉がきれいに色づいた11月のある日、「奥羽大学報」の編集委員は取材のために理事長室を訪れ、影山英之先生にインタビューをしました。先生が歯科医師の資格を取得された後、郡山で医療に従事され、そのことが本学開設へとつながったことなどを語っていただきました。（聞き手：安藤 勝）

「奥羽大学報」の前号(147号)の空中写真は、緑に包まれたキャンパスがよく表れており、いい写真ですね。ところで、今日は古い話をさせていただきます。

東京オリンピックは昭和39年(1964)でした。このころ、歯科大学を卒業して歯科医師になっても、ほとんどの人は地元に戻ってこなくて、都心部ばかりに就職しました。当時は歯科医師が不足で、社会問題でした。患者さんは2、3時間待って15分とか20分しか診てもらえない。抜歯した患者さんを家に帰しても後の出血が止まらなくて難儀したとか、治療の順番を待つのに整理番号札を取っても3時間くらい待たされたとか、そういう状況でした。

私は歯科医師免許を取得すると直ぐ医療に携わりました。先輩が1人いた医院でした。そのころの患者さんは連日のように100人前後ありました。いまではとても考えられません。ですから朝の8時くらいから診療を開始しました。当時の診療時間は、歯科医師会の指導では閉院を5時半か6時にしてくれといわれていましたが、とても終れなくて、夜の8時半ころまでずれ込むことがたびたびでした。昼休みは取れませんでした。

このころの治療台は一医院に1台、多いところでも2台。私のところは父親である理事長がスポンサーでしたから5台で、歯科医師が3人いました。診療の姿勢は患者さんを座らせて、歯科医師は立ってやりましたから大変でした。私のところは座位診療といって、患者さんを横に寝かせて、自分は椅子に座って診療しました。教育機関でもそれを教えるようになった最初のころでした。ただ、椅子から椅子へ移動するのは結構大変で、サンダルを履いてやるとかかかとが引っかかるといけないので、スリッパにして、その裏を毎日拭いて蝋をつけて滑って診療したという、今ではとても考えられませんでした。そのころはそうだったということです。今は診療用の靴を履きます。

当時の国民健康保険は、国民全部入っている皆保険でしたが、実際は70数%の保険加入の患者さんでした。保険に入っていない患者さんは、裕福な患者さんか、生活保護を受けている患者さんに分かれました。保険に入っている患者さんというのは中間層の方で、皆保険に近いけれど、皆保険ではないでしょうね。そういう時代でしたから、いわゆる診療報酬というような感じでは私費と保険管理者と、あとは保険によっては負担率が違う、そういう時代でした。

卒業後まもなく、うすい百貨店の斜め向かいのビル3階で開業しました。私ともう1人の方とで。その人は駅近くの大町で開業しておりましたが、事情があって、私の父親に相談して、移ってきました。診療所はできたけれど、今度は歯科医師会から反対があり、近隣の歯科医師からの協力が得られなくなり、そのまま診療を続けることはできませんでした。ですから1年から1年半後、歯科技工士専門学校のほうへ移動しました。幸いなことに東北歯科専門学校は昭和40年に設立されておりました。その財団法人である技工士専門学校が母体となって、昭和47年に大学ができたわけです。その技工士専門学校で診療を続けました。今までの患者さんもそこへ移ってもらいました。後輩の歯科医師が2人入り、診療と専門学校の教員をしてもらいました。そのころ、たばこ専売公社の診療所は2か所ありましたが、患者さんが多くて昼休みがありません。夜間診療もやっておりました。そこで専門学校が協力して、患者さんを引き受けました。技工士専門学校の教員は、大学ができる1年前までは開業の先生たちが授業を担当してくれました。私も5、6科目は担当しました。卒業したてで経験不足でしたが、やらなければならない状況でした。

現在、大学の位置は郡山の北限です。かつてはゴミの集積場でした。鳥獣保護区、禁漁区、そういうロケーションですから、ここで歯医者をやっているということを患者さんは誰も知らない。ですから患者さんに「あちらへ通いますか?」と確認してから大学病院へ紹介しました。

私は昭和54年2月に学位をいただきました。すべて始まりは困難ですね。軋轢は当然のことで、その方に力を入れると仕事にならない。対立して、乗り越えて、もくもくと自分のできることをやっていけと。すべて仕事は目の前にあります。いつも仕事は前にあり、我々を待ち構えています。後ろにはありません。

先代の理事長が年賀のあいさつに、「明るい光、豊かな緑」と書いて、ここのキャッチフレーズにしていました。私はそれに付け加えて「いつも仕事は前にある」をモットーにしたいと思います。大学が設立されて40数年、世の中の常としていろいろと難儀なこともありましたが、常に一歩一歩の前進です。明るい光を求めて、地道な歩みをしていくところに、豊かな緑が映えるものと信じています。ありがとうございました。

## 奥羽大学の理念・目的

### 理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

### 目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

## 認証評価受審に関する全学FD・SD

日本高等教育評価機構（機構）による認証評価を来年度に受審することが決定したことを受けて、10月8日（木）、全学FD・SDが開催された。教育研究の質保証は自己点検・評価の実質化が基本であり、本学は平成18年度より規程を定めて各年度に自己点検・評価を行い、冊子としてまとめて公表し、その後改善を行うPDCAサイクルを回転させている。この機能をより高めるため認証評価を受審することとし、教職員全員がこの受審の意義を確認するためのFD・SDであった。赤川学長から説明があった「本学の使命・目的」、「教育目的」、「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「アドミッションポリシー」を全員で再確認した後、機構が主催した責任者説明会の資料をもとに、評価基準ごとの「領域」「趣旨」「基準項目」「評価の視点」「エビデンスの例示」と平成26年度判断例が示され、注意が喚起された。次いで、大野歯学部部長から、機構による担当者説明会での「評価の流れ」「評価体制」「自己点検評価書の構成」「事前相談」の説明があった。衛藤薬学部部長からは「受審の具体的なスケジュール」が示され、これらを通じて参加者は実際に受審するまでの流れを理解した。このFD・SDを通じて、教職員全員は本学の使命・目的等を再度確認し、機構による認証評価を受審する意義を共有できた。

### 高校生の大学見学訪問

10月8日(木)に福島県立須賀川高等学校から98名、11月13日(金)に福島県立石川高等学校から40名の生徒が本学を見学した。

高校生は、赤川安正学長の「大学で学ぶことの意義」と題する講話を受講した後、キャンパス見学・授業見学、学食メニューを体験するなど、奥羽大学生と同じ時間を共有し、大学で学ぶことへの関心・意欲や職業観について考える良い機会であったと思われる。



### 第78回私立大学歯学部学生生活協議会

9月17日(木)、18日(金)、第78回私立大学歯学部学生生活協議会が本学の主催で開催された。

協議会では、私立歯科大学・歯学部17校の学生部の教職員間で、学生生活の課題や問題点、並びにその改善策や解決策について意見交換が行われた。各大学の課題や取り組みを知ることができ、非常に有意義な協議会となった。

### 歯学部保護者懇談会

10月17日(土)、歯学部各学年の保護者懇談会が開催された。この日は、昨年と同様奥羽祭も行われていたため、大学内が学生と保護者、その他来学者で活気にあふれていた。

懇談会には、101組(135名)の保護者が参加された。懇談会では学年主任・クラス担任から成績や学習の進捗状況が報告された。特に第6学年に対しては卒業試験や国家試験へ向けた学習、第4学年に対してはCBT・OSCEへの対策等の説明が行われた。



### 薬学部1年生赤十字救急法講習会

10月19日(月)、薬学部1年生を対象として、赤十字救急法の講習会が体育館で実施された。講師は日本赤十字社福島県支部救急法指導員の葛西梅太郎先生、玉城幸夫先生。今回の受講生約30名は、心肺蘇生とAED講習について真剣に学んだ。

授業科目「チーム医療学演習」の一環として実施される本講習会は、10月26日(月)と11月9日(月)にも開催され、3日間で合わせて約90名が受講した。

### 薬学部保護者懇談会

10月24日(土)、郡山ビューホテルにて、薬学部4年生及び6年生の保護者懇談会が開催された。4年生35名、6年生30名の保護者の申込みを得て、今年新たに設けた個別懇談会に始まり、学年別に分かれて各学年主任(4年：西屋禎教授、6年：柏木良友教授)より教育の現況説明が行われた。

最後に懇親会が開かれ、保護者と教員との交流があった。



## 薬害に関する講演会

10月26日(月)、ご自身がサリドマイド被害者である公益財団法人いしずえ常務理事の増山ゆかり氏を講師にお招きし、「サリドマイド禍から学ぶ」と題した講演会が第2講義棟第1講義室にて開催された。

この講演会は、今年度新たに開講した「チーム医療学演習」の一環として実施されたもので、薬学部1年生のみならず歯学部1～4年生も聴講した。

「自分に課せられたものは何か」たえず自らに問い続ける医療人になってほしいとのエールを戴き、学生は、真の医療人を目指して覚悟を新たにしようだ。



## 薬学部第2回教育研修・講演会

11月4日(水)、薬学部の第2回教育研修・講演会が開催された。演者に東京都医学総合研究所・細胞膜研究室・副室長の笠原浩二先生をお招きし、「スフィンゴ脂質マイクロドメイン/脂質ラフトを介するシグナル伝達による生体制御」という演題で講演が行われた。

笠原先生は、細胞における脂質ラフトの役割の解明に成功しており、2つの成功例を示された。小脳顆粒神経細胞の接着分子であるTAG-1が発生の細胞移動時期に一致して、ガングリオシドDG3のラフトに移行し、成長円錐シグナルを制御しているという発見を紹介した。また、これまで未解明であった血小板のラフトの役割を解明され、トロンピンによる血小板活性化に伴いフィブリンとミオシンがスフィンゴミエリンを主体とするラフトに移行することにより、効率よく血液凝固と血餅退縮を起していることを紹介した。

なお、本講演会は、教員のみならず学生も多数聴講し、研究マインド醸成の一助となった。

## 花岡教授、山形県警察歯科医会で講演

11月22日(日)、山形市歯科医師会館において、山形県警察歯科医会の研修が行われ、歯学部法歯学の花岡洋一教授が講師を務め、この様子が山形新聞に掲載された。

花岡教授は、全国各地の警察歯科医会や自治体で開催される研修会や講習会に積極的に参加し、法歯学普及の活動を展開している。

## 薬学部5年生キャリアガイダンス

11月24日(火)、第2講義棟第1講義室において、歯学部の唐沢明先生を講師として自己PR、エントリーシートの作り方、履歴書の書き方を中心とした5年生対象のキャリアガイダンスが実施された。講演では自己分析シートを用いたアピールポイントの発見方法や、より人事担当者の興味を引くエントリーシートの書き方、作成にあたっての注意点など、実践的な対応が説明された。



## 第24回公開講座を終えて

今年も9月から10月にかけて、恒例となった感のある総合テーマ「奥羽大学健康宣言」のもと、歯学部4講座、薬学部4講座、計8講座の公開講座が開講された。受講者層は、これも例年通り、60歳以上が7、8割を占めたが、それにしても公開講座はむずかしい。たとえ大半の方から「とても楽しい、面白い」と賛辞を得ても、そこに「内容がない、はぐらかされた」との感想が混じれば、とたんにその講座は色褪せる。逆に、「専門的すぎて分からない」との批判にも、「難しいが勉強になった、大学の講義を聴いているようで面白い」と、ひと声、ふた声、届くと、講師は救われる。いずれにせよ、「奥羽大学でなければ聴けない講座だった」との嬉しいお言葉に、これからも応えていきたい。



野崎いず実  
(実行委員長 薬学部3年)

# 第23回奥羽祭 -TSUBASA-



今年の奥羽祭は10月17日(土)、10月18日(日)に開催し、無事に終了することが出来ました。今年の学友会は現役の人数が少なかったため、去年までと同じように運営できるかという不安もありましたが、OB・OGの方々や学生課の皆様、各サークルの皆さん、その他大勢の方々に支えていただいたおかげで、当日は良い奥羽祭になりました。

現在の学友会メンバー内では、すでに来年の奥羽祭に向けての話し合いが始まっています。来年の奥羽祭も良いものになるように、一つ一つの物事に心を向けて取り組んでいきたいと思います。

末筆ながら、ご協力くださった多くの方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



「おいしい ふくしま いただきます!」キャンペーン

11月12日(木)、歯学部・薬学部学生約260名を対象に、ふくしまの食の安全性を理解してもらうためのキャンペーンが開催された。

福島県では、東日本大震災による福島第一原子力発電事故の影響で農林水産物に対する風評被害が残っている。県では震災直後から、全ての食物に適正な検査を行い確実に安全性が確認されたもの以外は市場に流通させない対策がとられているが、「漠然とした」不安感から県産の農林水産物の購買を避ける消費者も少なくないと思われる。

本キャンペーンは、こうした風評と学生の不安感を払拭するため、福島県と本学の共同で開催した。参加した学生らは農産物の安全性、放射性物質に関する知識などについて理解を深めた。

なお、福島県は同様のキャンペーンを県内すべての大学・短期大学で開催し、大学生本人や保護者への食の安全性のPR活動を展開していく予定である。



【キャンペーン内容】

講演「ふくしまの美味しい野菜の話」	藤田浩志 氏(野菜ソムリエ・農家)
講演「福島の食事と放射性物質の現状」	馬場 護 氏(東北大学名誉教授)
講演「東日本大震災前後における奥羽大学学生の食事・栄養調査について」	熊本隆之 氏(奥羽大学薬学部 衛生化学分野・助教)
料理家による県産食材を使った料理実演及び試食	佐藤文男 氏(郡山在住 料理人)
ふくしまの農産物に関するクイズ	みちのくボンガーズ

薬学部の神山祐樹君が座長賞を受賞

11月13日(金)、14日(土)の両日、千葉県東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートで第16回日本クリニカルパス学会が開催され、多根井研究室に配属されている薬学部5年生の神山祐樹君が座長賞を受賞した。クリニカルパスとは、患者状態と診療行為の目標、及び評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法である。全国から約3,000名が参加し、今回は口頭発表での受賞となった。

多根井重晴准教授をはじめ、6年生の伊藤翼君、遠藤英里香さん、村館薫さん、森下慎吾君、並びに共同研究者である井上忠夫教授が「日本クリニカルパス学会における一般演題に関する調査」と題し、日々の研究成果を発表した。



### 第69回日本細菌学会東北支部総会

8月21日(金)と22日(土)、郡山駅前のビッグアイ7階大会議室において第69回日本細菌学会東北支部総会が、歯学部口腔病態解析制御学講座の清浦有祐教授を総会長、玉井利代子准教授を準備委員長として開催された。

東日本大震災後に初めて福島県内で開催される支部総会ということで、東北地区のすべての医療系・農学系大学の微生物学研究者が集まり、多くの研究成果が発表された。また、慶應義塾大学薬学部の長谷耕二教授と野口英世記念会の竹田美文副理事長による特別講演も行われた。



総会長を務めた清浦教授

### 国際哺乳類ゲノム会議参加報告

11月8日(日)～11日(水)、横浜市開港記念館において理化学研究所(横浜)ピエロ・カルニンチ大会長のもとで第29回国際哺乳類ゲノム会議(IMGC2015)が開催され、出席した。私どもは歯周炎原因細胞と目される歯周炎関連線維芽細胞の、理研FANTOM5プロジェクトによるCAGE法解析結果に関してポスター発表を(演者は東京大学・呼吸器内科・堀江真史、写真右側)した。Keynote Lectureでは、理化学研究所(神戸)の高橋政代先生と慶應義塾大学の岡野栄之先生が再生医療に関する話題を提供した。これからはRNA研究が中心となる時代の到来を予感させる、大変有意義な学会であった。

(薬学部 生物・衛生化学分野 教授 大島光宏)



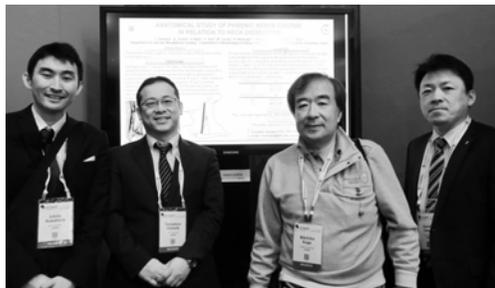
左から大島教授、東京大学保健・健康推進本部保健センター 堀江助教

### 国際口腔顎顔面外科学会学術大会参加報告

10月27日(火)～30日(金)、メルボルン(オーストラリア)のメルボルンコンベンションセンターで開催された第22回国際口腔顎顔面外科学会学術大会に、口腔外科学講座高田訓教授、濱田智弘講師と共に参加した。当科からは「頸部郭清術に関する横隔神経の走行についての解剖学的研究」と「急激な歯根吸収を認めた脈管性骨嚢胞」の2演題を発表した。さらに、世界各国の著名な先生方の講演や、民族・人種・宗教の垣根を超えた国際交流は、私の医療人としてまた日本人としての意識に大きな影響を与えてくれた。

また、大会前日の26日(月)、同会場で開催された国際口腔顎顔面外科専門医セレモニーにも高田教授、濱田講師と共に参加した。ここでは、第1回国際口腔顎顔面外科専門医試験の難関を突破した濱田講師ら42人に対する認証式および祝賀会が盛大に開催され、高田教授と私も招待頂いた。荘厳な雰囲気の中で、ロープを身に纏った濱田講師の威風堂々とした姿は見るものを圧倒する一方で、表彰状授与の際は、軽快なオージージョークで会場を爆笑の渦に変えた場面もあった。

(歯学部 口腔外科学講座 講師 川原一郎)



左から川原講師、濱田講師、右は高田教授



左から2人目が濱田講師

## 第68回東北地区歯科医学会

10月31日(土)と11月1日(日)、岩手県盛岡市の岩手県歯科医師会館「8020プラザ」において第68回東北地区歯科医学会が開催された。

開会行事には来賓として歯学部齋藤高弘教授が登壇された。一般口演では薬学部の大島光宏教授が「新しい歯周炎検査試験紙の開発」、歯学部の瀬川洋教授が「福島県における仮設住宅入居者に対する口腔ケア推進事業の検証」および「事業所健診における歯科的健診項目導入の取り組み」について発表され、活発な質疑応答が行われた。

## 第60回奥羽大学歯学会

11月14日(土)、附属病院棟5階臨床講義室において、第60回奥羽大学歯学会が開催された。大学院生及び専攻生による学位口演を含む17演題の発表と、清野晃孝准教授による本学附属病院の現状に関する報告があり、質疑応答も活発に行われた。その中には、歯学部3年生の濱村和樹君、入野真生君、平田真紀君らによる発表もあった。今年度より歯学部の1年生から4年生までは、自分が興味のある研究室で研究活動を行うことができる「エレクトィブスタディ」という科目が設けられたが、今回の濱村君らの研究は、この授業を活用して行われたものであった。



清野晃孝准教授



「エレクトィブスタディ」の研究を発表した濱村君(右)と宇佐見教授

## 大学院特別セミナー

9月28日(月)、講義棟研修室1において、赤川安正学長による大学院特別セミナー「学位口演の仕方について」が開催された。

学位口演における効果的なプレゼンテーションについて説明があった。見やすく分かりやすいスライドを作成することで、学位口演の内容が格段に素晴らしくなることを実感できるセミナーであった。当日は、大学院生、臨床研修歯科医及び教員の他に歯学部学生も参加して熱心に受講した。

## 研究倫理に関する大学院特別研修セミナー

11月13日(金)、第2講義棟第1講義室において、東京大学研究推進部長の小野幸嗣氏を講師に迎え、「研究倫理アクションプランの作成とその展開～高い研究倫理を東京大学の精神風土に～」と題するセミナーが開催された。

セミナーでは、研究倫理・研究不正防止を推進するために東京大学で実践されているさまざまな試みについて詳細な説明があった。特に学部生・大学院生が自主的に不正防止に取り組む様子は、研究倫理教育を本学で推進するためにとても参考になるものであった。当日は、歯学部・薬学部教員、大学院生及び臨床研修歯科医の計132名が参加した。



## 附属病院

### 指導歯科医資質向上講習会

9月5日(土)、当院において「平成27年度指導歯科医資質向上講習会」が開催された。

日本歯科大学新潟病院の水谷太尊准教授をスーパーバイザーとして迎え、「高齢化への対応」、「医科と歯科の連携を図る」の演題で講演を頂いた。受講者15名(学内11名、学外4名)が「在宅歯科医療」、「地域医療連携」のテーマでグループ作業を行い、超高齢社会に対する医療のタイムリーな内容であったため、全体討論は大変活発であった。



### 医療安全管理研修会

9月17日(木)、東京歯科大学水道橋病院医療安全室長の半田俊之先生をお招きして、第8回医療安全管理研修会が開催された。「東京歯科大学における医療安全」と題して講演を頂いた。東京歯科大学では、インシデントレポートがなければ分析ができないということに着目し、インシデントを提出してもらうことを医療安全委員会全員で啓発努力し、現在では当院の10倍のインシデントレポートが提出されているとのことであった。当院も見習う箇所が多く、有意義な講演であった。

### 医療事故防止のための相互チェック

10月27日(火)、当院において国・公・私立大学歯学部附属病院間の「医療事故防止のための相互チェック」が実施された。チェック内容は「自己チェック」と「重点項目に関する訪問調査」から構成されており、全国29校30病院の参加により3校ずつの10班に分け、互いの病院の医療安全管理と院内感染対策についてチェックされる。当院には鹿児島大学病院と日本大学歯学部付属歯科病院から各3名ずつの実施委員が訪問され、細部にわたりチェックを受けた。



### 第2回研修歯科医派遣式

10月30日(金)、第2回研修歯科医派遣式が行われた。地域医療短期研修プログラムの研修歯科医7名は、呼名起立後に山森徹雄研修管理委員長より訓示を受け、その後各々の決意表明を述べ出席者の激励の拍手に見送られた。派遣先は栃木県に2名の他、福島県、茨城県、千葉県、埼玉県、大阪府に各1名となっており、その研修期間は11月2日(月)から来年2月20日(土)までの4ヶ月間である。



# 奥羽大now

## 会津のこころ2題

歯学部1年「郡山学/福島学」の授業から

### 日新館とその教育から現代を学ぶ

講師：宗像精氏（会津藩校日新館館長）

日時：11月4日(水)

幕末の動乱期に「ならぬことはならぬ」を家訓として貫き通した会津藩の教育についての講義であった。「他者に対する思いやりは普遍的であり、科学文明が進展する今日こそ、われわれは強く意識する必要がある」と述べられ、「将来、立派な歯科医師になってほしい」と学生らにエールが送られた。また、「あいづこ宣言」が紹介され、「夢に向かってがんばります。やつてはならぬ、やらねばならぬ、ならぬことはならぬものです」などの説明に、学生たちは真剣に聴き入っていた。



### 野口英世の光と影

講師：八子弥寿男氏（野口英世記念館館長）

日時：11月11日(水)

いままでの伝記ではあまり触れられていない、とっておきの秘話が紹介された。というのも講師の八子弥寿男氏は野口英世の親友であり同級生でもある八子弥寿平のお孫さんであり、常日頃、彼から英世の話を聞かされていたという。手の手術後八子弥寿平と撮った写真が英世の最初の写真だという話や、金銭感覚には疎く、血脇守之助、恩師小林栄、八子弥寿平らには生涯にわたり支援してもらった話、また「人となること、学問は第2だ」という英世のモットーや、ガーナで亡くなったときの柩は一度も開けられることなくニューヨーク郊外のウッドローンに埋葬されたことなど、偉人の思わぬ側面が語られた。



## 自著を語る

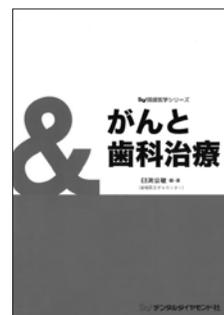
### 「がんと歯科治療」

臼淵公敏著 デンタルダイヤモンド社

本書は、歯科医療従事者ががん患者にかかわるときに必要な“共通言語”となる全体的事項や各がんの病態・治療に関する最新・詳細な解説書である。

「基礎編：臨床腫瘍学のミニマム・エッセンス」では、主治医から最も依頼されるであろう5大がん（肺癌・胃癌・大腸癌・乳癌・食道癌）を中心に最新の標準治療とその関連事項について、「歯科編：がん患者の口腔機能管理」では、がんと診断された時からがん治療中そして終末期までの歯科的アプローチについて、それぞれセクションに分けて解説。がん周術期口腔機能管理に取り組む歯科医療従事者には良きパートナーとなる一冊である。

（地方独立行政法人宮城県立病院機構宮城県立がんセンター医療局 歯科 歯学部18期生）



## 歯学部研究紹介

## UCLAにおける海外研修を終えて

口腔外科学講座 歯科麻酔学分野 准教授 川合宏仁

平成27年3月から8月までの半年間、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の歯学部歯科麻酔科にて、歯科麻酔学に関する研修を行ってきました。研修期間中は、UCLA 歯学部の小児歯科とロサンゼルス市内のサージェリー・センターの6階にある口腔外科ロサンゼルス・センターの二施設で、全身麻酔の導入・維持、患者管理に関するさまざまな知識を学んで来ました。

今回は、UCLA 歯学部の小児歯科で行われていた全身麻酔管理法についてご紹介したいと思います。この全身麻酔管理法は、気管内挿管を行わないで管理する方法、すなわち、挿管無の全身麻酔法と呼ばれ、日本では、実際に行っている施設は少ないものの、UCLA の小児歯科では通常のように行われており、カリフォルニア州の他の歯学部病院でも一般的に行われている管理方法でもあります。そこで、UCLA の小児歯科で行われている挿管無の全身麻酔法を、使用薬剤量、安全性の面から後ろ向き研究によって検討を行いました。

対象者は、UCLA の小児歯科で自分が研修を受けた6か月間において、挿管無の全身麻酔法で管理された全身麻酔症例65名の患児で、平均年齢は4.8歳でした。全身麻酔方法は、最初に塩酸ケタミンとミダゾラムの筋肉内注射を行い、入眠後、すぐに点滴を確保し、塩酸モルホンとプロポフォールの静注により全身麻酔が開始されました。全身麻酔の維持は、小児歯科のレジデントが全身麻酔のレベルを観察しながら、用手にて点滴からプロポフォールを静注し維持しました。また、術後の嘔吐や嘔気を予防するために、セロトニン受容体遮断薬のオンダンセトロンを投与していました。これらの薬剤の平均使用量は、それぞれ塩酸ケタミン49mg、ミダゾラム2mg、塩酸モルホン0.11mg、プロポフォール11.9mg/kg/h、オンダンセトロン1.9mgでした。

これらの結果より、麻酔前投薬の塩酸ケタミンとミダゾラムの投与量は、筋注量としては推奨量よりも少ないものの、小児の点滴確保を行うための投与量としては十分でした。また、導入・術中の麻酔維持薬として、レジデントが持続投与していたプロポフォールの投与量を持続投与速度に換算すると、推奨されている持続投与速度1)の範囲内であったことから、シリンジポンプを用いないレジデントによる用手持続投与も可能であることが示されました。さらに、術後管理中に嘔吐した患児が認められなかったことから、塩酸モルホンなどのオピオイドに対する嘔気・嘔吐予防薬としてオンダンセトロンは有効であると考えられました。

今後、UCLA で学んだこのような知識・技術を、症例や適応をふまえ、奥羽大学の全身麻酔管理に臨床応用していきたいと思っております。

## 文献

- 1) McFarlan CS, Anderson BJ, Short TG. : The use of propofol infusions in paediatric anaesthesia: a practical guide. Paediatric Anaesth. 1999;9 (3) : 209-16



UCLA 小児歯科の診療風景

## 薬学部研究紹介

## 電気応答性を示すマイクロカプセルからの薬物放出に関する研究

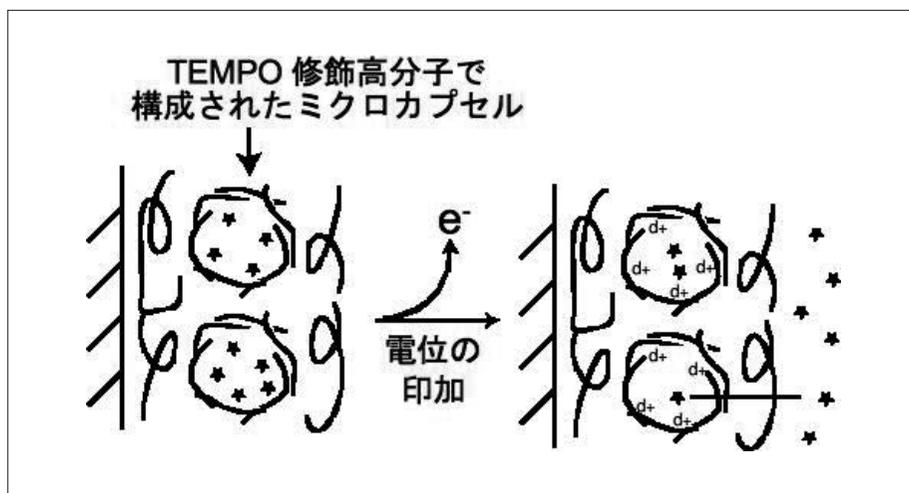
物理化学分野 助教 吉田 健太郎

長年、リポソームやマイクロカプセルなどの薬物送達システム (DDS) に関わる研究が盛んに行われている。その中の一つに、交互累積膜法を利用したマイクロカプセルの調製法がある。本方法では、芯物質に親和性のある高分子を交互に積層した後、芯物質を溶解することで容易にマイクロカプセルを調製することができる。本研究室は、これまでに、インスリンを内包するマイクロカプセルによる放出挙動について報告している\*。

また、光やpH、熱などの刺激に応じて薬物が放出されるシステムの研究が注目されている。様々な刺激に応答するために機能性物質を修飾した高分子を用いた方法がある。本研究では、電気刺激に応答する2,2,6,6-Tetramethylpiperidine 1-Oxyl Free Radical (TEMPO) を用いたマイクロカプセルの開発に取り組んでいる (下図)。電気刺激に応答する薬物の放出は、電気信号量に応じてきめ細やかに薬物の放出を制御できる利点がある。さらに、電気応答型の薬物放出システムと血糖値やコレステロールの疾病用センサを組み合わせることで、薬物が必要な時に必要な量の放出ができるコントロールド・リリースのオートメーション化を目指している。

本研究は、JSPS 科研費若手研究 B26860111 の助成を受けたものである。

\*K. Yoshida et al., Polymers 2015, 7, 1269-1278



電気刺激による薬物の放出

## 同窓会だより

渡辺 義宏(茨城県同窓会会長 歯学部6期生)

同窓の皆様におけるご健勝ご活躍をお喜び申し上げます。

奥羽大学歯学部茨城県同窓会の近況をご報告いたします。

現在茨城県内には、約130名の同窓生がおり、それぞれが各地区で活躍しております。茨城県は福島県に隣接した場所のため、歯学部には在校生(大学院生を含む)が16名、教職員が8名おります。これは皆さんご存知の通り勉学に対して、理想的な環境と考えられる結果だと思えます。

東日本大震災に際しては、多くの同窓の先生方からご高配を賜り、ありがとうございました。震災から4年が過ぎて、茨城県同窓生一同、皆落ち着いてきたようです。また、今年の鬼怒川氾濫に際してもご心配いただき、ありがとうございました。県内の同窓会会員に大きな被害もなくほっとしております。

近年の茨城県同窓会の学術講演では、奥羽大学学長の赤川安正先生を筆頭に多くの先生方に講演をお願いしてまいりました。特に赤川先生の講演では、最近のインプラントについてご教授いただき多くのことを勉強させていただきました。また、講演に際しては、近隣の先生方にもご参加いただき盛大に開催できました。紙上をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

会員の活動では、学生時代スキー部で活躍された荻野義重先生が茨城県歯科医師会で唯一のスポーツドクターとして認定されました。また、県歯科医師会理事の渡辺進先生も禁煙教育などでそれぞれ活躍されています。

同窓会活動では、年末の学術講演、忘年会に毎年多くの同窓の先生方に参加いただき楽しいひと時を過ごしております。

最後に、茨城県には茨城空港があり、北海道や九州への直行便があります。ぜひ遊びにいらしてください。

## 同窓生のひろば



山内 真知(歯学部34期生)

日毎に寒さがつり、ストーブの恋しい季節となりました。お風邪など召されていませんか。私の暮らす仙台では日ごとに寒さが増し、今年もまた1年が過ぎようとしてい

ます。

時が経つのは早いもので、奥羽大学歯学部を卒業して5年が過ぎようとしております。私たち34期生は未曾有の大災害をもたらした2011年3月11日の前日に卒業式を行いました。そんな中で歯科医師となり5年程の間に自分が何をしてきたのか、どのくらい成長できたのか、などとそんなことを考えるようになっていたところ、この「同窓生のひろば」のお話をいただき日々の出来事や奥羽大学での思い出を懐かしみながら原稿を執筆しております。

卒業後、東北大学病院で臨床研修を終え、勤務医を経て現在は父のもとで小さな診療所に勤務しております。沢山の先輩方にも助言をいただきながら患者様と向き合い「どうしてもやり遂げようとする意志と熱意」だけは忘れずに開業に向け精進しております。私の所属する奥羽大学歯学部宮城県同窓会は毎年、春には総会、冬には忘年会を行っております。共に学術講演会を兼ねており年2回、知識の研鑽と親睦を深めております。学術講演会におきましては奥羽大学より講師派遣のご協力に御礼申し上げます。今年度総会では奥羽大学学長赤川安正先生を講師にお迎えして「歯科医療の新しい価値と奥羽大学のチャレンジ」を演題としてお話して頂き、ここ最近暗い話題の多い歯科業界にあって改めて歯科医療の可能性や価値について考えさせられ、「怨」の心を忘れずに困難も乗り越えていきたいと思いました。

また、宮城県同窓会は月に一度理事会、懇親会を開催し情報交換も行っております。非常に積極的に活動しており、我々若手が卒業年度問わず多くの先輩方と交流できる機会ですので、宮城県にお住まいの先生や働いてみたいとお考えの先生は代表までご一報いただければ幸いです。

## 二階堂 淳美 (薬学部1期生)

卒業生の皆様、お久しぶりです。奥羽大学1期生の二階堂淳美です。

薬学部同窓会の発足より、会員の皆様や関係者の皆様には、日頃より同窓会の活動にご理解とご協力いただき、本当にありがとうございます。震災から約五年がたちますが、まだまだ原発事故の影響や、震災の影響が県内にも多く残ります。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

震災後、一時は同窓会の存続も危ぶまれましたが、一期生の有志メンバーを中心になんとか毎年の運営をしまいりました。それでも、日々の業務に追われ多大なる負担が一人一人にかかっております。福島県を中心に薬学部同窓会では会の役員やお手伝いいただける卒業生を募集しております。

どうぞ、お気軽にご連絡ください。

【奥羽大学薬学部同窓会】

ohu\_ph\_dousouaki@yahoo.co.jp

さて、私は今、茨城県にありますドラッグストアで働いています。OTC 販売と調剤併設店に勤務しておりますが、驚くほど様々な症例の患者様に出会います。

卒業してから、我々薬剤師の取り巻く環境や状況が大きく変わりました。セルフメディケーションの重要性や在宅医療への積極的な参加、そして門前薬局のあり方など、時代のニーズに合わせて我々の担うべき業務も責任の重いものとなっています。

私の勤める店舗では比較的外国人の利用も多くあり、片言の英語や身振り手振りでなんとかコミュニケーション。日々悪戦苦闘です。特に中国の方は日本の健康食品や OTC に大変強く興味をもっておられ、今までは処方薬の勉強が中心でしたが、私の学ぶべき分野も大きく変わっています。

ところで、皆さんは「頭が痛い」と訴える患者様がいたらまず何を思い浮かべますか？風邪？筋緊張性頭痛？眼精疲労？一言に頭痛といっても様々な要因が含まれており、一人一人の起因する背景を探っていかなければ、適切な医薬品の購入を促すことはできません。病院にすぐ行くということは実はとても難しいことです。どこまでが自己で解決できるものか見極めるのも、これからの薬剤師の大切な役割となってくるのでしょうか。

6年制薬剤師も増え、薬剤師全体に新しい風が吹いています。日々努力し、より良い薬剤師を目指していきたいと思えます。

## 人 事

## &lt;採用&gt;

矢吹 宏志 技術係長 総務部 12月1日付

## &lt;退職&gt;

岡本 望 助 教 歯科補綴学 10月19日付  
平石 ゆかり 係 長 総務部 10月31日付  
遠藤 千穂 歯科衛生士 病院医療部 11月30日付

奥羽大学報148号(通算No.273)平成27年12月15日発行  
発行 奥羽大学  
学報編集委員会  
委員長 赤川 安正

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1  
電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372  
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>  
メールアドレス [info@ohu-u.ac.jp](mailto:info@ohu-u.ac.jp)

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。

## 平成28年度入学試験日程

入試区分			募集人員	日 程				試験会場
				出願期間	試験科目	試験日	合格者発表	
歯学部	推薦	一期	10名	H27.10.26(月)～H27.11.6(金)	・小論文・面接	H27.11. 8(日)	H27.11.10(火)	本学
	一般選抜	一期	30名	H28. 1. 7(木)～H28. 1.21(木)	・必須 コミュニケーション英語(I・II) ・選択 「数学(I・II・A)」「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」の4科目のうち1科目を試験会場で選択	H28. 1.24(日)	H28. 1.27(水)	本学 仙台 東京 大阪
		二期	10名	H28. 2. 1(月)～H28. 2.16(火)	・必須 面接	H28. 2.18(木)	H28. 2.20(土)	
		三期	6名	H28. 2.29(月)～H28. 3.12(土)	※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H28. 3.15(火)	H28. 3.17(木)	
	特待生選抜	一期	25名	H28. 1.7(木)～H28. 1.21(木)	・必須 コミュニケーション英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択	H28. 1.24(日)	H28. 1.27(水)	本学
		二期	5名	H28. 2.29(月)～H28. 3.12(土)	・必須 個人面接 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H28. 3.15(火)	H28. 3.17(木)	
	AO	一期	5名	H27. 8.31(月)～H27. 9.11(金)	・面接 ※選考方法 出願書類および面接試験の結果を総合して判定する	H27. 9.13(日)	H27. 9.15(火)	本学
	同窓特別	一期	5名	H27. 8.31(月)～H27. 9.11(金)	・面接 ※選考方法 出願書類および面接試験の結果を総合して判定する	H27. 9.13(日)	H27. 9.15(火)	本学
	編入学	随時	若干名	願書受付後日程調整のうえ随時実施	<2年次編入> ・小論文 ・面接 <3～4年次編入> ・学力試験 ・面接	H27. 9. 1(火) ～ H28. 3.18(金)	試験実施後3日以内	本学
	薬学部	推薦	一期	30名	H27.10.26(月)～H27.11.6(金)	・面接 ※選考方法 出願書類および面接試験の結果を総合して判定する	H27.11. 8(日)	H27.11.10(火)
一般選抜		一期	45名	H28. 1.7(木)～H28. 1.21(木)	・選択 「コミュニケーション英語(I・II)」「数学(I・II・A)」の2科目のうち1科目を試験会場で選択	H28. 1.24(日)	H28. 1.27(水)	本学 仙台 東京
		二期	20名	H28. 2.1(月)～H28. 2.16(火)	・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択	H28. 2.18(木)	H28. 2.20(土)	
		三期	5名	H28. 2.29(月)～H28. 3.12(土)	・必須 面接 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程の範囲との共通部分から出題する	H28. 3.15(火)	H28. 3.17(木)	
特待生選抜		一期	25名	H28. 1. 7(木)～H28. 1.21(木)	・必須 コミュニケーション英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・必須 理科「化学基礎・化学」 ・選択 理科「物理基礎・物理」「生物基礎・生物」2科目のうち1科目を試験会場で選択	H28. 1.23(土)	H28. 1.27(水)	本学
		二期	5名	H28. 2.29(月)～H28. 3.12(土)	・必須 個人面接 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H28. 3.14(月)	H28. 3.17(木)	
AO		一期	10名	H27. 8.31(月)～H27. 9.11(金)	・面接 ※選考方法 出願書類および面接試験の結果を総合して判定する	H27. 9.13(日)	H27. 9.15(火)	本学
編入学	随時	若干名	願書受付後日程調整のうえ随時実施	【2年次編入】 ・小論文 ・面接	H27. 9. 1(火) ～ H28. 3.18(金)	試験実施後3日以内	本学	